

令和6年度第2回男女共同参画推進懇話会 議事録

令和7年1月8日(火)10:30~12:00
宗像市役所304会議室

【参加者】

出席者:石橋委員、石山会長、久保委員、戸畑委員、藤谷委員、水田委員、山田副会長
欠席者:魚住委員、小森委員
事務局:八木、吉武、萩野

1 はじめのあいさつ

宗像市男女共同参画推進懇話会 会長 石山さゆり

2 議事録署名人選出

議事録署名人 : 久保委員

○委員
●事務局

3 議事

(1)令和5年度実施状況(重点項目)及び評価について

●委員が提出した評価のコメントを事業番号毎にまとめている。不備や追加等を検討し修正を加えて、委員評価コメントを完成させたい。

①「地域社会活動における男女共同参画」について

○コメントでは、「女性消防団」と記載されているが、「女性防災士」と修正すること。

②「働く場における女性の活躍推進」について

○5ページの「6 事業所への啓発促進」のところで、SNSのツールを使って啓発を進めるべきではないかという意見がある。具体的には、市が公式に持っているフェイスブック、LINE、最近では、インスタ等のソーシャルメディアを使って啓発するということを進める必要がある。どう効果的に発信するかということも大事である。

○自分から取りに行く情報ではなく、入ってくるのを待つのがLINE。色々な情報が入ってきて、「これを見たいな」としていくのは大変効果的ではないか。

○公式LINEのお知らせで関心を持つことはあまりないと思っている。情報が多過ぎるので、たくさん時間がある人は良いが、一般的には忙しいので情報に食いついてくるのは難しい。だから、SNSのツールに頼り切りになるのはどうかと思う。直接飛ばせる仕組み、つまり、現場の様子が見える情報に繋がる必要があると思う。

●NPOや市民活動団体はコミュニティ協働推進課が担当しているので、全部は網羅できないが、知り得た情報を集約して、探しに来た方が少なくとも最低限の情報を提供できる形を整えていく必要があるのではないかなと思う。

○発信の仕方を工夫することが非常に大事なことで、発信するだけでなく、どんな方法で発信するかがポイントになっていく。

○「就労に関する情報提供と就労、再就職、キャリアアップ支援」について、市の広報の情報提供が大変弱い。女性たちへ届く広報作戦が必要だ。

○「50代以上のシングル女性の収入底上げにつながる教育が必要」とあるが、ピンポイントの収入底上げにつながる教育というのは、どういう意味なのか。

○弊社で50代以上の方が働いているが、ほとんどが独身で、介護や子育てでいったん仕事を離れたため、ずっと時給で、いくら賃金が底上げされたところで、生活は楽になっていかないというのが現状だ。将来を考えると、それなりの給料が受け取られるような何かがないといけない。目の前に60、70歳が迫った時に、「どうしよう」と困惑されることへの心配が大きい。「また働きたい」という子育て中の方々に焦点を当てられることは多いが、この50代以降の方々には支援がない。収入の底上げになるような対策をやっていないと、これからどんどんシニアの方々をこんな形で抱えていくことになっていく。

○福岡市の職場では、女性の半分ぐらいは独身で、福岡市自体、ものすごく女性の独身率が高くなっている。正規雇用で中堅クラスの会社に勤めてずっと独身でいる人は年金もたくさんあるだろうが、50代は不況の時代の中、職がなかったり、派遣だったりという方が多く、いつまで働けるのかも含め、何か差し迫った問題に感じている。

○教育に焦点を当てるとすることで、OA研修のような講座等が考えられるが、50代で履修できるのか、仕事のきっかけにタイムリーになるか心配だ。

●市では、男女共同参画推進課が資格取得の補助金制度を作り、結婚出産、育児や介護などで離職した方、非正規で働いている方の就労に結びつくような資格取得の補助等を今年度から始めている。指摘されていることにも取り組むようにしているので「シニアとなる50代以上のシングル女性の収入底上げにつながる教育が必要」という一文を加えることにしたい。

○キャリアアップに関して、支援給付金の対象者がいなかったり、ハローワークの就労支援要請がなかったりしたという実績から見て、就労に有利な関係部署等で連携した伴走型支援が望まれるのではないかなというように思うが、

相談者に対しても具体的な支援というのはできるのか。

- 市役所では、4月からハローワークの隣にその方の適性や生活、仕事を希望しているかということを聞いた上で伴走型の支援ができるようなジョブプラザ(仮称)をオープンさせる予定にしている。そこは男女に関係はないが、伴走型支援を受ける方が出てくると考えている。その中で、女性に関しては、資格を取ったら、今よりもよい待遇で雇用が見込めるという方を対象に、資格取得に対する補助を進めている。
- 先ほどの文で「就労を支援する資格取得講座が積極的に開催されていることは高評価に値する」「就労相談や資格取得講座等の情報の周知」と併せて、伴走型の支援が望まれる」を加えることとする。
- この内容が入ると次のプランに活かせる。

③「ワークライフバランスの推進」について

- 「育児休暇をとった男性が、産後うつになる報告がある」とあるが、もう少し詳しく知りたい。
- 今、育休をとった男性が、赤ちゃんの夜泣きの対応や家事手伝いをするようになって、少し精神的におかしくなってきたということが、出てきている現状がある。現在調査中だが、助産師が訪問した際に、父親の様子がおかしいということがあっている。関係機関につなげて対応をしてきているが、このような事例が少しずつ増えてきている。育休をとる方が増えている中、今後増えていくと思われる。
- 男性も女性も一緒に、育休を取ると社会から隔離され、情報がなくなって、疎外感というか自分の有用感がなくなっていくのかなと想像した。男性も何か支援がないと苦しい状態だと思われる。
- 精神的におかしくなり、頭をぶつけたり、自殺を考えたりと、そこまでひどくなるようだ。周りは、「育休をやめて早く仕事復帰したらよくなる」と、簡単に言うが、女性と同様、徐々に徐々に仕事に復帰するというのも、必要なことかと思われる。
- 「そんなことはない」や「男だから産後うつになるはずがない」等と強く言われ、さらに落ち込むといったことも起きているようだ。「男のくせに、女のくせに」といった問題もある気がするが、環境は変わらないので、物理的な問題として男性の方が慣れていくのに時間がかかるようだ。
- 父親に対する子育てや家事に対するイメージトレーニングをしてほしい。
- 子育て募集のチラシについて、標記を工夫することで、参加者が96人から233人に増えたというのは、良い事例と思う。どんな工夫をしたのか詳しく知りたい。
- SNSの活用に加えて、チラシ表記の工夫ということで「男性もいいよ」ということを入れ込んだと聞いている。
- 昨年度からではなく、その前から、「パパも歓迎しますよ」という標記をしたら、参加者が少しずつ増え、そこを足がかりに口コミ等で増えてきている状況だと聞いている。
- この方法は、他にも広がってきているようだ。成長線が上がっていった感じだ。広報は、一言でつかみの言葉を入れ、興味が出たら次に入るといことで、恐らくつかみの言葉が良かったと思う。その後に体験者の「良かった」が広がっていったと考えられる。
- 次のところになるが、男性で子育て支援センターを利用する人が増えているということにも、関連するわけで、子育て支援センターを利用した男性の数が233人ということだ。
- 参画プランでは、233人が講座の受講者数に見えるので、施設利用と講座参加者の合計数が233という表記の仕方に変えた方がよい。
- 男性の育休が増えたことで、赤ちゃんを抱っこしている父親が増えたと思う。子育て支援センターへ行くのも当たり前みたいになってきているのかと思う。

④「安全安心に暮らせる社会づくり」について

- 22番の関係機関との連携強化で「DV被害者相談、支援体制は、相談しやすい環境づくりと被害者への支援を行ってほしい」とあるが、それに併せて「加害者にならない教育」というのが必要と思う。22のところに入れ込めないか。
- 加害者だという意識の薄い人が加害者ということがある。加害者を出さない取組をどのようにしていくのが大切だ。
- 小さい時から加害者にならないということを学習することが大事だ。
- 自分を大切にすることは、自分の言いたいことがきちんと言えるかということだ。言えないから上下関係ができたり、言葉のやりとりが難しくなったりしていく。デートDVもそうだが、「自分を大切にすること」や「困ったときは誰かに相談する」といった助けを求めることができることが大事だ。親がしていることを正しいと見てしまうことが多く、中学生ぐらいになるまで、おかしいことに気が付かないことが多い。
- 加害者を出さない取組をどのように進めていくのか難しい問題だ。
- DV被害者でも、DVを受けていることを認識していない方が多く、加害者なのに加害者だということがわかっていない方も多と思われる。地域への啓発やセンターの講座の中で、「これはDVなのだ」ということを理解してもらうことが大切だと思う。話を聞いた人が、地域に戻った時や友達、家族と話さず「これってDVらしいよ」ということを話し、少しずつ広げていってもらえるよう取り組んでいるのが現状。すでに幼少期からの教育で認識が固まってしまう方たちについては、「これはDVなのです」ということを知ってもらうために、国の週間等に合わせてポスター等を掲示し、たくさんの方の目に触れるようにする取組をしている。
- 小中学生等、教えてもらえる時期に、「自分を大切にすること」をしっかりと学習してほしい。裸の画像を送ってしまう

たら、ホームページ等で世界に広がってしまう訳で、10年後に結婚が破談になったということも起こっているらしい。男性も女性も若い時に、気付く機会があると良い。それが、加害者を出さない教育につながる。

○以前、人権擁護委員が、中学校3年生対象にデートDV防止の人権教室を行っていた。デートDV防止教室を計画した学校に、人権擁護委員が授業に出向くというもの。学校によって授業の内容が異なってくるので、難しい面もあるが、このような機会を作ってもらいように、学校に働きかけるとよい。

○中学校3年生は、義務教育が終わったら学校も地元だけではなく、いろいろな所で人間関係も広がるため、その前に理解を深めてほしい。

○学校の人権教育は、どの学校もしっかりやってくる実態がある。宗像市は、小中一貫教育を行っていて、中学校区でどう進めていくかという系統立ったカリキュラムを作成している。その中で「デートDV」といった個別の内容は、学校裁量なので働きかけをしていくことによって取り入れる学校があると思う。インターネットについても、利用の仕方については、低学年の段階から学習してきている。どこに視点を置くかで違ってくるので、学校がどんな内容で実施するかということになる。

○性教育に関しては、被害を受ける児童が多くなってきていて、やはり教育が大事だと思う。日本はかなり遅れているのが現状だ。

○「ハラスメント等の防止」の23のところに「加害者を出さない取組」があった。22のところへの追加記載はしなくて良い。

⑤「男女共同参画社会の実現に向けた啓発」について

○36の「教育現場における性教育」は、外部講師を招くことが大事だ。男女共同参画協議会で聞いた話だが、北九州市は、外部講師を招いての性教育を全面的に小中学校で行っているということだ。特に、助産師を招いて行われた学習は、とても良かったという話だった。担任だけでは無理があるので、専門性のある人を招聘して学習することができれば良い。

○性に関する教育ではなくて、命の教育の一環として助産師は良い。本学の教員も地域に出て行って小中学校で話をしているが、地道に広がっていったらいいと思う。取組自体は良いが、校長の考えにすごく差があり、なかなか進まない。一度行くと良さが理解され、次もということになるようだ。高校に出前授業に行ったことがあるが、性の話は、高校生よりもっと若い時にする必要があると感じている。

○外部講師について、その効力を外部に公表して進めていくには、何で外部講師を招聘する学習を望むのかという説明を加えた方が良い。外部講師を望むのはなぜかということを理解されることが一つの手だてになるので、一文入れた方がよい。

○資料2の最後のページに、「全体的なこと」としてまとめているが、すごく大事なことが書いてある。昨年度も同様の指摘をしている。

○この文は、1回目の会議で検討した資料6の実績報告によるものと思われる。大切なことをご指摘いただいているので、全体的な内容と把握し、最後に記載している。総括文の中にも盛り込まれてはいいかがか。(事務局)

○懇話会の役割は、評価して事業をより良く改善していくということだ。次期の計画では、是非評価の仕方を変えていく必要がある。全体として評価を避けるというかばかしている表記が見られ、資料を見ても、評価する我々の立場では、事業の良し悪しやどう進んで何が改善されるのかも全く読み取れない。次期の計画では、どう評価して、どう改善していくかという仕組みをしっかり作った方がよい。

○結果を具体的に書くようにするということだ。何を実施して何ができたのか、できなかったのかを具体的に書くとうまくわかる。そうすれば、どのようにしたらいいのかという次の課題も出てくる。

○本来、社会の変革をどう生み出していくかということが全体の目的になる訳で、本当の変革に行き着く数値を書いてしまったら、その数値に縛られて、しんどくなってくる。なるべくぼかせるようにして、現場ではしっかり頑張ろうというやり方を選択してしまう気持ちはよくは分かる。しかし、評価を受けて改善をしていくためには、しっかりとした目標と何をどこまで行ったかの報告をしていくという評価を受ける姿勢が重要となる。

●次期プランでは、ご指摘を踏まえ、懇話会の意見を庁内で共有しながらプランをしっかり作り込んでいかなければならないと考えている。

○目標のシートでは、目標を達成するための事業目標が、「支援を行いますとか、取組を進めます」となっていて、支援を行った後にどうなってほしいということがないということだ。

○行うことが目標になっているということだ。毎年少しずつは改善されているが、次期は変えていこう。

○評価コメント等の修正については、今回の意見をもとに事務局が修正し、次回会議で確認することとする。

(2) 令和5年度実施状況報告に対する意見書について

●第三次プランでは、第1回の会議のときの配布資料8の形式で、本日資料1「実施状況及び評価について」を作成し、会長が作成した総括の文書を添付して、市に提出していただいている。今年度の意見書の作成の手順も同様に進めていけるかの審議をお願いしたい。

○総括の文章だが、昨年までずっと会長が書いているが、違った視点で、書くのも一つなのかなと思う。私だけの意見ではなく、皆さんの意見を集約して、なるべく反映させようと思って書いているが、今回は違う方に書いてもらって良いのではと思っている。マンネリになっているような反省もあり、具体的などころも含めて、違った視点で書いてはどうかと思うのだが、このような方法ですというのをあらかじめ、確認して進めた方が良かったとも思う。

- 本年度は、昨年度までの経緯も理解されてある会長に作っていただいて、今後は、例えば、会長と副会長で検討して原案を作って、それをみんなで協議していくという方法やこのような文章にしようということを事務局が加わって検討していくといった方法等を検討して進めていくと良いと思う。本年度は、会長に作成していただきたいと思う。
- 今年度は会長が案を作る。第3回会議の時に、委員から意見をもらう。
- 意見書の形式は、事務局提案を承認する。総括は、会長が作成することとする。

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進懇話会 委員

久保 春奈